

児童らクレヨン作り挑戦

山形大 化学の日イベント

日本化学会などが10月23日
を「化学の日」と定めて
山形大小白川キャンパスで



栗山恭直教授(右)らに教
えられながらクレヨンを作
る子どもたち(山形市・山
形大小白川キャンパス)

23日、小学生を対象にし
た実験イベントが行われ、
子どもたちがクレヨン作り
を通して理科の面白さに触
れた。

昨年設けられた化学の日
は、ある物質の中に含まれ
ている構成要素を表記する
「アボガドロ定数」(6・
02×10の23乗)にちなみ、
10月23日に決めた。社会
における化学産業の役割を
理解してもらう狙いで、10
月23日を含む週は「化学週
間」と位置付け、関係者が
集中的に啓発活動を展開し

ている。

日本化学会に所属する同
大の栗山恭直理学部教授が
講師を務め、小白川キャン
パス内にある科学の学習ス
ペース「SCITAセンタ
ー」に、山形八小の科学工
作クラブの4〜6年生21人

を招待した。理学部の学生
4人も加わって教え、赤、
青、黄、白の4種類の粉末
や廃油処理剤、溶かしたろ
うそく、サラダオイルを材
料にクレヨンを作製。子ど
もたちは身近な品を簡単に
作れる楽しさを味わい、同
小5年の高橋奏翔君(10)は
「色(粉末)を混ぜるのが
面白かった。茶色のクレヨ
ンができて、とても書きや
すい」と話していた。
今月25日には山形市の蔵
王一小で実験イベントを実
施する。